

卒業論文の要旨

論文題目	硫黄島の戦い—戦闘の考察
氏名	佐貫大知
メジャー	日本地域研究(J)
<p>(要旨)</p> <p>太平洋戦争において日本軍はミッドウェー海戦で敗北して劣勢となり、戦局は大きく転換した。それ以降で唯一日本軍の損害よりも米軍の損害が上回ったのが唯一硫黄島の戦いである。本卒論では、その要因を、用いられた戦略や兵器・武器、指揮官の違いという観点から考察し、日米両軍にとっての硫黄島の重要性を明らかにしようとした。</p> <p>硫黄島の戦い以前では、どのような戦術や兵器・武器が用いられていたか、硫黄島の戦いではどうだったのかを比較することで、それぞれの違いを明らかにした。</p> <p>第一章では、硫黄島以前に日米両軍の重要地域となっていたマリアナ諸島について取り上げ、戦闘経過とともに硫黄島が戦略的価値のある島となるまでの流れを述べた。</p> <p>第二章では、硫黄島を地理的観点から日米両軍にとって重要な島であることを明らかにし、硫黄島の戦闘経過を述べた。</p> <p>第三章では、硫黄島で用いられた日本軍の戦略と水際作戦との比較を行い、戦略による要因をまとめた。</p> <p>第四章では、硫黄島の戦いで用いられた日本軍の兵器・武器を取り上げて比較を行い、兵器・武器による要因をまとめた。また、米軍の兵器についても取り上げた。</p> <p>第五章では、硫黄島総指揮官の栗林忠道の能力や人間性について検討し、指揮官のあり方という要因をまとめた。</p> <p>第六章では、マリアナ諸島やパラオ諸島の各戦闘の状況を比較して、硫黄島の戦いと各戦闘との違いを考察し、戦後の硫黄島についても触れた。</p> <p>以上の各要因については、第三章から第五章までが主な考察と主張であり、戦略や兵器・武器といった軍事的視点と、指揮官の人間性といった思想的視点の二つの視点から考察した。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>本論文は、日米戦争における硫黄島の戦いについて、その地政学的な位置・軍事的な要因・戦争指導者の資質などを多面的に分析したものである。</p> <p>学士課程の学生の論文としては、内容的にも分量的にも充実しており、優秀論文として推薦する。(太田哲男)</p>	